



第6回



地域の絆をつくる

防災コンテスト受賞作品集



e防災マップ



防災ラジオドラマ



防災コンテスト

検索



国立研究開発法人
NIED 防災科学技術研究所

第6回防災コンテスト

概要

「防災コンテスト」は、「e防災マップ」及び「防災ラジオドラマ」の制作と活用を通じて、災害に強い協働型の社会構築を目指して開催しているものです。

e防災マップ (12グループ)



最優秀賞

- 金栄校区命をつなぐ災害弱者避難経路防災マップ
金栄校区自主防災会(愛媛県新居浜市)



特別優秀賞

- 隣接学区との協力・連携マップ
星崎学区連絡協議会(愛知県名古屋市)
- 名古屋市北区金城学区の防災マップ
プロティア(愛知県名古屋市)
- 亦楽小学校2015年度子ども防災マップ
七ヶ浜町立亦楽小学校(宮城県七ヶ浜町)



優秀賞

- 自動車学校が作った『思わず見たくなる防災マップ』
株式会社 昭和自動車学校(静岡県富士市)
- 富田地域防災マップ「とんだマップ」
富田自治会連合地区防災会×富田小学校(大阪府高槻市)
- 分散型水管理を通じた風かおり緑かがやくあまみず社会の構築
樋井川流域治水市民会議(福岡県福岡市)
- 桜学区防災マップ-防災安心まちづくり委員会-
桜学区防災安心まちづくり委員会(愛知県名古屋市)
- 豊中国際避難マップ(略称:とよきゅうひなんマップ)
大阪大学 人間科学研究科 社会環境学講座(大阪府吹田市)
- 地震・風水害 ハザード栗真ツブ
三重県津市立栗真小学校(三重県津市)
- 南西四区防災マップ
小林市 南西四区(宮崎県小林市)



特別奨励賞

- 能登川地区洪水浸水度と避難路マップ
一般社団法人能登川地区まちづくり協議会(滋賀県東近江市)

防災ラジオドラマ (6グループ)



最優秀賞

- みんな一緒に避難しよう(音声)
関西大学近藤研究室・チームSKH(愛知県岡崎市)



特別優秀賞

- 帰宅困難者対策 避難所連携(音声)
愛知産業大学三河高等学校放送部(愛知県岡崎市)
- わたしにできること(音声)
江戸川女子中学校放送部(東京都江戸川区)



優秀賞

- 平成21年豪雨を忘れないために私たちにできること(剣川堰堤調査)(脚本)
水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊(山口県防府市)
- 私に語る資格はあるのでしょうか(脚本)
語り部KOBÉ1995(兵庫県神戸市)



作品活用賞

- 障害者が避難所に来たら(音声)
豊橋市障害者福祉会館さくらピア(愛知県豊橋市)

日程(第6回)

申込開始

2015年(平成27年)

4月1日

応募締切

2015年(平成27年)

12月25日

表彰式・シンポジウム

2016年(平成28年)

3月19日(土)

主催



後援



文部科学省

一般社団法人
防災教育普及協会

審査委員

■ 審査委員長

- 平田 直 東京大学地震研究所 地震予知研究センター センター長

■ 審査委員(50音順)

- 臼田 裕一郎 防災科学技術研究所 災害リスク研究ユニット プロジェクトディレクター
- 大窪 健之 立命館大学 歴史都市防災研究所 所長
- 鍵屋 一 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 コミュニティデザイン学科 教授
- 齊藤 馨 内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当)
- 千野 秀和 NHK 高知放送局 放送部アナウンサー
- 早川 典夫 星崎学区連絡協議会 防災部長
- 松室 寛治 文部科学省研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室長



審査委員の講評

防災コンテストの直接的なゴールはマップ、ドラマをつくることである。だが、作品の完成度の高さは審査の対象ではあるが、それが全てではない。最終的な目的は、災害から私たちの命と暮らしを守ることである。自分を取り巻く環境を一生懸命理解しようとし、災害の危険性をきちんと調べられたかどうか、調べたデータを上手く使えるかどうか重要な観点である。災害について単に調べるだけでなく、地域の人と協力して共に理解し、未来につなげてほしい。

日本にはさまざまな災害がある。5年前の東日本大震災は地震と津波による災害であり、他にも大雨や台風などによる風水害、火山災害で犠牲になる人もいる。全国の人がこのコンテストに向けて活動をし、成果を発表することはさまざまな種類の災害について情報交換を行う機会となる。また、地域との連携という観点では、災害弱者へのフォローを取り上げたグループもあった。高齢者や年少者、外国人など日本語力が十分でない人たちに焦点をあてた活動でも、立派な成果が上がっている。

170を超えるグループからの応募があった中、表彰式の会場に集まった18のグループは全国の代表である。ぜひ皆で交流をして、いろいろな種類の災害、地域のことを知ってほしい。



審査委員の視点



- 地域の災害特性や防災対策の現状、地域課題について調査し理解していること。
- 地域のさまざまな関係者と協力しながら作品をつくっていること。
- 作品を活用し、地域のさまざまな関係者とコミュニケーションを図っていること。
- 地域防災上の新たな課題や改善につながるアイデアが含まれていること。
- 地域防災上の現状を見直し、新たな防災取り組みの提案となっていること。
- 作品として優れたもので、作品に含まれているメッセージが地域に伝わること。

受賞作品及び各作品に対する審査委員の講評につきましては、下記のサイト、または、インターネット検索サイトにて「防災コンテスト」で検索してください。

防災コンテスト公式サイト <http://bosai-contest.jp>

表彰式・シンポジウム

2016年3月19日(土)、つくば市の防災科学技術研究所・和達記念ホールにて「第6回防災コンテスト 表彰式・シンポジウム」を開催いたしました。受賞団体・審査員を始め、NPO団体関係者、防災活動関係者、メディア関係者、一般参加の方など全国から約100名の方々にご来場いただきました。



e防災マップ講評

政府では、近い将来に大規模な災害が起こることを想定しそれに向けた対策を行っている。災害には社会全体で備えていくことが大切である。では社会全体の方々にどう呼びかけをしていくか——というところで、防災コンテストは非常に大事な位置づけである。

過去のコンテストにおいて受賞されたグループにも非常に感銘を受けた。作品を見れば、いろいろな地域の、学生・留学生・一般企業などさまざまな立場の人たちが防災に取り組んでいる。

コンテストでは、完成した作品のみを評価するのではない。活動の中で、いかに地域のリスクを発見し、それにどう立ち向かうかというプロセスが大事である。コンテストの作品づくりは、それぞれの地域の方々がしっかり防災意識を持つために重要な取り組みである。最優秀賞に選ばれたグループも、そうでないグループも素晴らしい取り組みをされているので、その活動をぜひ他の地域の方々にも広げてもらいたい。

昨年開かれた国連防災世界会議は、政府だけで行っていた防災を地域の方とも協力して行う機会となり、さらにそれを世界にも広げることができた。世界各地の人々が、日本の防災活動に関心をもっているので、ぜひ皆で協力をして、活動を世界の防災に役立ててほしい。

防災ラジオドラマ講評

このコンテストのテーマは、災害対応への意識や経験を伝え、さまざまな人との絆を深めることである。防災ラジオドラマの原点は、防災とはなかなか結びつきにくい「面白がる、楽しむ」という観点を防災に取り入れようとしたことである。過去の作品をNHKで放送した際、防災の「楽しさ」を人々に印象付けることができた。防災というのは、どうやって継続していくかが課題である。やらなくちゃいけない、と考えてしまえばモチベーションが下がるので、いい意味で、楽しむという要素を防災の中に取り入れることが課題である。

参加者たちはさまざまな立場から防災コンテストに関わっており、それぞれに実現したい目標がある。「やらなくちゃいけないこと」だった防災活動を、ドラマにして楽しいものに変えたいという思いが生まれたら、ぜひ他の団体にも声かけをしてほしい。

いろいろな人とのつながりを持つために垣根を越える方法はなかなか思いつかないが、今の時代思い切って声かけをしてみるといい返事もらえることもある。実際、そのように行動を起こした結果入賞を収めたグループもいる。今はまだできなくても、自分たちがやりたいことを叶えてくれる人がいないか探してみしてほしい。インターネットでも何でも利用できるものは駆使してつながりをつくってほしい。この会場に集まった人はある程度その過程を潜り抜けた方々なので、ぜひ、周りの人にも自分たちの活動を広げてほしい。



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e 防災マップ

最優秀賞

愛媛県新居浜市(地震・水害・土砂) 金栄校区自主防災会 金栄校区命をつなぐ災害弱者避難経路防災マップ

評価・期待ポイント

- 3世代で街歩きを実施し、災害時の危険性、対応力を確認している。
- 災害弱者の避難経路をまちあるきの経験を通じて記入している。
- 子供や防災専門家も活動に参加している。
- マップの中に自治会内の資源を多数落とし込んでいる。
- e防災マップづくりを通して防災学習を総合的、体系的に進めている。
- 継続的に活動している。

- 水害など、過去の災害の教訓を伝える工夫をより一層進めてほしい。
- 別のハザードについても同様に取り組んでほしい。
- これまでの取り組みが発災時に確実に機能するのか、検証を兼ねた訓練を実施してほしい。

金栄校区自主防災会



タイトル	金栄校区災害弱者の命をつなぐ避難経路防災マップ
活動地域	愛媛県新居浜市
対象災害	南海トラフ巨大地震 土砂災害、台風による浸水被害など
グループの概要	平成16年、金栄校区では、5つの台風接近によって、土砂災害など甚大な被害が発生しました。その教訓を得て、平成17年に金栄校区自主防災会を結成し、毎年、防災訓練、防災学習、まちあるきを通じて、防災マップを作成しています。今年度は、地区防災計画も策定し、地域の防災力の向上を図り、自然災害などから被害を出さないため、防災・減災活動を行っています。
マップの特徴	▶災害弱者に対する支援を考慮して、防災訓練にて車イス取扱訓練、避難行動要支援者模擬体験などを実施し、災害弱者の気持ちになりマップを制作した。 ▶まちあるきにて、危険箇所のほか道路の傾斜、冠水、避難が困難な箇所も調査し、結果をマップに反映した。
マップ作成の成果	▶5年生が1年間を通じて防災活動に取り組み「自分の命は自分で守る」ことを身につけた。 ▶自助の意識と共に助け合おうとする共助の意識と自分たちのふるさとを守り、次世代へ繋げようとする気持ちが子供達の心の中に生まれた。



まちあるき記念撮影



e防災マップ入力



まちあるき観察整理



車イス取扱訓練



要支援者体験

「第6回防災コンテスト」(主催: 国立研究開発法人防災科学技術研究所)
「2016年3月19日発表ポスター」



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e 防災マップ



愛知県名古屋市(地震・津波・水害) 星崎学区連絡協議会 隣接学区との協力・連携マップ

評価・期待ポイント

- 震災時の火災避難を念頭に置いた避難経路の地図として優れている。
 - 災害時に隣接小学校区との協力・連携を視野に入れている。
 - 火災延焼危険度や災害時要援護者の身体特性を表示するなど、共助の視点を取り入れている。
 - 地域のさまざまな関係者が訓練を行い、そこから得られた課題からさらなる改善を行っている。
-
- 災害時要援護者の情報共有範囲を明確化するなど、個人情報の保護との両立のための工夫をしてほしい。
 - 住民の意識が高まっているので、次は住民の知識を高める活動をしてほしい。
 - 完成度が高いので、他の地域に対してそのノウハウを伝授する「伝道師」としての活動に期待したい。

星崎学区連絡協議会（小学校区組織）



タイトル	隣接学区との協力・連携マップ
対象災害	地震・津波
地域	愛知県名古屋市南区
作品概要	この地域は南海トラフ巨大地震が起きたとき、震度6強～7の揺れが起き、家屋の倒壊や延焼火災が危惧されています。広域に大災害が起きたときは常設消防には限界があるため、地域の住民や事業所、隣接する消防団が協力して消火に当たる必要があります。避難行動要支援者・要配慮者を地域で助け合う「共助」の重要性もマップに表現しました。
作品・活動PR	消防団が中心となり学区内をまち歩きし、社会資源、防災資源、そして延焼火災の危険性を調査し、改めてこの地域のリスクを発見しました。広域災害時における災害時要援護者の支援のあり方や、多発火災が発生した時の隣接消防団からの支援・受援のあり方を平時から考えておく必要があります。また有事に備えて訓練を継続しています。



第6回防災コンテスト（主催：国立研究開発法人防災科学技術研究所）
2016年3月19日発表ポスター



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e 防災マップ



愛知県名古屋市(津波・水害)

愛知学院大学(プロティア)

名古屋市北区金城学区の防災マップ

評価・期待ポイント

- 小学生の目線で危険箇所を探してマッピングしている。
- 広告を掲載することでビジネスモデル化をするという新たなチャレンジを行っている。

- 情報発信は積極的なので地域とのコミュニケーションをより積極的に行ってほしい。
- 広告が本当に見る人を誘導できるのかが疑問なので検証も行ってほしい。
- 地域の過去の災害に関する情報を追加してほしい。

愛知学院大学 (プロティア)



生活者が毎日使い続け、緊急時に直ぐ思い出せるeコママップを目指して

地域 名古屋市北区全小学校区(第1弾 金城小学校区)

めざすところ 各小学校の「児童×大学生×保護者×専門家」からはじまる「地域ぐるみの自主活動を支えるプラットフォーム」として、地域力・防災力アップを図る

マップ

名古屋市北区(小学校別eコミュニティ)

このサイトについて 防災マップ
DeChubu愛知学院大学のeコママップ活動で制作したものです。
このサイトは、名古屋市北区(金城学区)のeコママップ活動の成果です。各小学校の防災マップを掲載し、地域ぐるみの自主活動を支援するプラットフォームとして、地域力・防災力アップを図ることを目指しています。

2015年10月31日のスケジュール
愛知学院大学日進キャンパスで防災マップ制作ワークショップを開催
2015年10月31日(土) 10:00~12:00 日進キャンパス 防災マップ制作ワークショップ
参加費無料 定員100名 申し込みは10月25日まで
申し込み先: 名古屋市北区管理センター

リンク
名古屋市北区管理センター 赤松
DeChubu
愛知学院大学
愛知学院大学 地域連携センター

10月29日

ポイント

- **地域でつって、地域防災力アップ**
小学校単位で防災マップ作りを実践(毎年)することで、「子供×大学生×保護者×専門家」の関係ができる。さらに地域の団体の参加で、世代を超えた地域ぐるみの自主活動へとつながる。
- **地域情報を掲載、日常的に使う防災力アップ**
防災情報だけでなく、地域の情報を載せることで平時でも防災情報に触れる機会を作る。
- **広告掲載収益で継続的な情報更新と維持管理**
日常的に使えるマップであるためには継続的に情報が更新されることが必要であり、活動を続けるためには費用もかかる。そこで、プラットフォームとして継続的に情報更新される仕掛けと費用については通知機能付き広告掲載での収益を考えている。

1回目WS(金城小学校)



2回目WS(愛知学院大学)



受賞



金城小学校(小学生と保護者)×プロティア(学生グループ)×北区役所×防災NPOが協働。プロティア主導で企画立案、防災情報下調べ、フォローアップ制作、地元商業施設やイベント等の情報を掲示して発信できるアイデアを考えました。このアイデアで京都で行われた学生のビジネスプランコンテストでも賞を受賞しました。

「第6回防災コンテスト(主催:国立研究開発法人防災科学技術研究所)」 「2016年3月19日 発表ポスター」



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e 防災マップ



宮城県宮城郡七ヶ浜町(地震・津波) 七ヶ浜町立亦楽小学校 亦楽小学校2015年度子ども防災マップ

評価・期待ポイント

- 活動記録が充実しており、カリキュラム形式で整備されている。
- 児童のコメントに加え大人の視点も追記されている。
- 児童が直接地域代表との話し合いをしている。
- 町をあげてe防災マップづくりに取り組んでいる。

- ハザードマップ以外の資料も追加してほしい。
- 新たな課題やアイデアを加えつつ各校の独自性や地域性が発揮されるようなマップづくりを期待したい。



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e 防災マップ



七ヶ浜町亦楽小学校

タイトル	亦楽小学校 2015 年度子ども防災マップ
対象災害	地震災害、津波災害
地域	宮城県 宮城郡七ヶ浜町
作品概要	東日本大震災で巨大津波による被害を受けた七ヶ浜町では、震災から5年目となる今年、多くの小学校児童から、震災当時の記憶が薄れてきています。そんな中、全町内の5つの小中学校の防災担当の教員が集まって「ジョイント5」という会議を持ち、児童たちに必要な防災教育は何かについて意見を交わしました。これを受けて町の防災主幹校亦楽小学校では、地域住民らの協力の下、参加体験型の「防災まちあるき・マップづくり」を行い、児童の防災への理解と当事者意識とを育てる取り組みを始めました。防災教育の手法に悩まれている多くの教職員の方の参考になるように、学習指導の視点や、地域の協力者をどのように活用するかといった事例の紹介に重点を置いて作成しました。少しでも他校の防災教育に活用されれば嬉しいです。
作品・活動 PR	総合的な学習の時間を活用し、地域住民の協力の下、参加体験型の防災学習を行うことを目的として、「防災まちあるき・マップづくり」の企画がスタートしました。平成26年度は初めての取り組みで、社会福祉協議会さんらの外部の協力者からたくさんの支援をもらい、実施しました。平成27年度は前年の取り組みを発展させることができたので、他校の先生方にも紹介すべく本作品の作成に着手しました。町の防災対策室の職員の方や、地区の区長さん、民生委員さん、学校の見守り隊の方など、地域防災に係る多くの方と児童が直接対話し、自分の肌で地域の防災について学習できる活動になるよう工夫しました。



第6回防災コンテスト(主催:国立研究開発法人防災科学技術研究所
2016年3月19日発表ほスター

2015

第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e 防災マップ

優秀賞

静岡県富士市(地震・津波・水害・土砂・火山) 株式会社 昭和自動車学校 自動車学校が作った『思わず見たくなる防災 マップ』

評価・期待ポイント

- 民間の津波避難ビル関係者から詳しく聞き取り調査している。
- ドライバーの視点と民間企業の視点が新しい。
- 見られる地図にするためのグルメ情報なども入れている。
- アクセス道の確認作業では運転のプロならではの着眼点が随所に見られ、車両による避難のみならず徒歩による避難の際にも大いに役立つ。

- 情報発信に力を入れているので、コミュニケーションという側面でも期待したい。
- ワークシートを活用した課題の深掘りをしてほしい。
- 地域の過去の災害に関する調査を行ってほしい。
- 災害時だけではなく、平時から事業所の地域貢献を期待したい。
- 地元の関係団体、関係者等とも連携して、住民参加型のイベント(訓練)などを積極的、継続的に行い、地域の防災力の向上に尽力することを期待したい。

自動車学校が作った「思わず見たくなる防災マップ」 株式会社 昭和自動車学校(静岡県富士市)

活動について



のべ228ヶ所

地震、津波、噴火、etc.. 市に指定された避難場所 のべ158箇所を回り、写真撮影と聞き取り調査を行った。加えて、市の指定以外にもオリジナルの避難箇所 のべ70箇所を入力しています。

(地震・津波・噴火・洪水ハザードマップ/液状化可能性マップ/木造住宅密集地/高圧送電線/道路幅員4m未満/橋/煙突/灯籠)

見ていただくための工夫



防災マップ内に入っている画像は、1枚の画像だけで多くのことが伝わるよう、1枚の画像内に複数の写真やコメントを入れています。



「事故が多発する場所」等、自動車学校ならではの情報をちりばめ、さらに、教習指導員の「お薦めグルメマップ」まで入れました。

(事故多発地点/一時停止/矢印信号/路切信号/速度規制道路/路上教習エリア/グルメマップ)



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e 防災マップ



大阪府高槻市(地震)

富田自治会連合地区防災会 × 富田小学校
富田地域防災マップ「とんだマップ」

評価・期待ポイント

- 防災施設として、防災倉庫などの既存の防災施設だけでなくコンビニ、医療機関など、日常から必要な施設も取り入れている。
- 路上駐車を見回るなど住民で実施可能な対策を検討している。
- 他の自治会にも自主防災組織の提言をしている。
- 子供の目線を取り入れたマップづくりに工夫の跡がうかがえる。
- 多くの関係団体と連携し、幅広い人々が防災に関して考えるキッカケとなるような工夫がなされている。

- 地域の状況は刻々と変化するため、作成した地図を定期的に見直す機会をつくとともに、防災活動を継続してほしい。
- 検討された対策アイデアなどをマップに表現してほしい。
- 地域の過去の災害について調査してほしい。
- 地域組織の合意形成をさらに充実・発展させてほしい。

富田自治会連合地区防災会 × 富田小学校
富田地域防災マップ「とんだマップ」



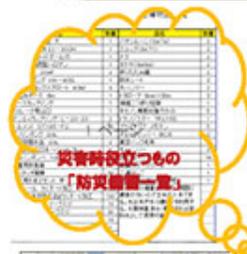
活動地域：大阪府高槻市

グループ概要：「富田自治会連合地区防災会」の立上げを平成27年度中に予定していたことから、そのきっかけ作りに防災マップを作成することになり、同時期に防災の授業を行っていた地域内の富田小学校6年生とも共同してこの防災マップの作成を行った

作品の概要：対象災害「地震災害」

「避難時に重要な道」・「危ないところ」・「すぐに逃げ込める場所」・「災害時に重要と思われる場所、役立つもの」等を記した

今後の目標：自治会ごとの自主防災組織を立ち上げ、地域の防災力を高める



災害時役立つもの
「防災備蓄一覧」



自治会の代表者等を中心に情報共有



記憶だけをたどり(仮)防災マップ作成



富田小学校6年生と家宅参訪



念のため
「地震」

自治会ごとの自主防災組織を立ち上げて、地域の防災力を高めましょう！



小学生オリジナル防災マップを作成



保原や地域の大人に発表・意見交換



e防災マップへの落とし込み準備



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e 防災マップ



福岡県福岡市(水害)

樋井川流域治水市民会議

分散型水管理を通した 風かおり 緑かがやく
あまみず社会の構築

評価・期待ポイント

- 詳細な洪水ハザードマップをまとめて提示している。
- マップを利用した防災活動を進めている。
- 河川治水に注力し、源流探しから水量モニタリングまでさまざまな取り組みを市民会議として行っている。
- 分散型多目的市民ダムという構想も共助による治水という新たな分野の先駆けとなりうるものとして興味深い。

- 洪水だけでなく、地震の揺れによる被害も合わせた避難計画・行動につながるようにさらに、活動を進めてほしい。
- 地域の人(特に子供やお年寄りなど)を巻き込んで、市民主導の防災活動が展開されることを期待したい。

分散型水管理を通した 風かおり緑かがやくあまみず社会の構築

樋井川流域治水市民会議 福岡市城南区・南区(2級河川樋井川流域)



実行委員
福岡工業大学 職員の山本 雅浩

雨水タンクスマート化・見える化



M 高層雨水タンク (5.0t設置)



高層階アンダーパイプ設置モニタ画面



乙女が池スマート化工事

活動の目的

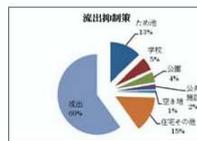
治水・利水・環境・暮らしなどを見据えた包括的な水循環が存在する「あまみず社会」を提案し、福岡県樋井川流域において、水を軸としたコミュニティの再構築を目指す。

活動方法

現在の水管理システムを補完する分散型のサブシステムとして、雨水を貯留し、地下へ浸透させる取り組みを流域の多世代多様なステークホルダーにより実施する。雨水を貯め、利用する過程で人々の水管理に対する意識を育むとともに、流域内の豊かな生態系の再生にも取り組む。

活動内容

- ・45回にわたる会議、ハザードマップの作成、雨水タンクの設置(106基)、浸水標サインの設置
- ・雨水貯留レンジャーZによる子供への啓発活動、グリップーキャンペーン及び防災どんたくへの積極的参加
- ・スマート雨水タンクによる見える化と豪雨前予備放流、善福寺川など他流域との交流
- ・今後、雨水タンクなどの設置の公募、雨水センターの設置、源流の碑設置などを予定



高層階雨水タンクサイン



グリップーキャンペーン 2016



加瀬池(9万トン貯留)一掃干し



雨水貯留レンジャーZ



雨水タンクを利用したフェアアナーンク



タンクの色
福岡市城南区、南区設置予定と
NPO市民ダム啓発する会とのコラボ

苦労した点

流域治水、あまみず社会の実現というコンセプトを理解していただくこと。

今後の課題や展開に向けたビジョン

- ①人びとの生き方(福祉)の幅を増やす技術と核とした都市設計をすすめていく
- ②リスク・マネジメントと生き方の幅を広げる



以上により水の制約を見えるようにし、自ら循環に参加することの重要性を知らしめていくことにより

中長期目標

- 1) 樋井川での企業地でのあまみず社会への取り組み
- 2) あまみず社会の企業への普及
- 3) 善福寺川のみずが流れ始める



高層階アンダーパイプ(110t貯留)



雨水ハウス(W.6、42t貯留)



雨水タンク設置状況

毎年度のバックアップで、メンバーの協賛が豊富であること、福岡工業大学が設置した雨水タンクの設置状況です。この雨水タンクの設置者に対するアンケートで雨水タンクを防災に用いる場合の現状と問題点を把握しました。



田島地区ハザードマップ

住居と指標し、避難経路が水没する場合は校区外に避難できる。校区外の避難所の確保も実施しました。このハザードマップは校区外に避難したハザードマップ「田島校区水害危険度マップ」の先駆けから、この電子地図に反映したものです。



長尾校区ハザードマップ

住居と指標し、避難経路を特定しました。このハザードマップは校区外に避難したハザードマップの先駆けから、この電子地図に反映したものです。このハザードマップは校区外に避難したハザードマップ「長尾校区水害危険度マップ」の先駆けから、この電子地図に反映したものです。



高層校区ハザードマップ

高層校区のハザードマップを住居と指標しながら作成しました。避難経路のための避難ビル、マンション等の管理組合にお話しして指定させていただきました(伊藤 啓太)。また、福岡県庁管内に設置した4タイプの雨水タンクも設置しました。このハザードマップは校区外に避難したハザードマップ「高層校区水害危険度マップ」の先駆けから、この電子地図に反映したものです。



また、多世代をつなぐは2017年10月に実施した「あまみず社会」の先駆けから、この電子地図に反映したものです。このハザードマップは校区外に避難したハザードマップ「高層校区水害危険度マップ」の先駆けから、この電子地図に反映したものです。これにより、Google Earthでも見えます。



愛知県名古屋市(地震・水害) 桜学区防災安心まちづくり委員会 桜学区防災マップ-防災安心まちづくり委員会-

評価・期待ポイント

- 民生委員が加わることで福祉の視点が充実している。
 - 要援護者支援という目的に特化し、社会福祉協議会など関係者と綿密に連絡をとっている。
 - 多様な主体や子供たちも巻き込んで、次の世代にも伝わる活動になっており、防災活動を通じて福祉問題にも気づいている。
 - 行政の要支援者名簿と連携して運用することで取り組みの有効性を高めている。
-
- 発災時、避難行動要支援者を誰が、どのように支援するか、といった「共助」の仕組みが表現されることを期待したい。
 - 今後はより多くの当事者(住民)が参加する機会(訓練など)を企画し、取り組みが定着することを期待したい。

桜学区防災安心まちづくり委員会

タイトル	防災マップ ～災害弱者を救え～	
対象災害	地震災害、集中豪雨水害	
地域	愛知県 名古屋市南区 桜小学校区	
作品概要	<ul style="list-style-type: none"> ・マップにより要援護者情報と居住場所の見える化を図った。 ・マップの電子化により防災情報を一元化し地域特性を明確にした。 	
作品・活動PR	<ul style="list-style-type: none"> ・マップづくりは大人から子供までの幅広い目で危険箇所を確認した。 ・要援護者対策は、社会福祉機関・団体等の専門機関と連携した。 ・コミセンに高齢者相談窓口を開設して、福祉活動を支援した。 ・要援護者は居住する組単位で見守り・生活支援を行うようにした。 ・高齢者サロン等の居場所を作り、顔の見える関係づくりを進めた。 	





第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e 防災マップ



三重県津市(地震・津波・水害) 三重県津市立栗真小学校 地震・風水害 ハザード栗真マップ

評価・期待ポイント

- 活動の幅が広く、詳細に記録されている。
- 生徒たちが半年以上かけて、丁寧に学習し町歩きを行うなど、よく調査が行われており、危険情報が多数掲載されている。

- 紙マップからデジタルマップに転記する際にデジタルならではの工夫してほしい。
- マップに盛り込む情報を徐々に増やしてほしい。
- 町歩きを共同で実施したり、イベント(訓練等)を実施するなど、保護者や地域の人と一緒に防災活動を行う機会も増やしてほしい。

地震・風水害



ハザード栗真マップ

津市立栗真小学校6年生 [三重県津市]



1学期 総合 | 災害リスクを知ろう

ふるさと「くりま」を知ろう
～災害リスクから学ぶ町歩き～

小川 町屋

<p>小川自治会 町中さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波にはかなり入っているの？ ・川の周辺 ・川の周辺 ・日本酒蔵のこと ・蔵のこと 	<p>町屋 伊藤さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波が来て入っている ・津波が来て入っている ・津波が来て入っている ・津波が来て入っている
<p>水害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小川川 ・町屋 	<p>津波対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小川川 ・町屋



2学期 総合 | 共に生きる



「ハザード栗真マップ<デジタル版>」の作成

1学期 総合 | 災害リスクを知ろう

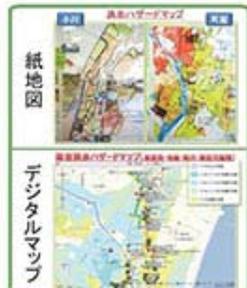
2学期 総合 | 共に生きる

3学期 総合 | 自分たちから発信しよう

ハザード栗真マップ

紙地図

デジタルマップ



3学期 総合 | 自分たちから発信しよう

1学期 総合 | 災害リスクを知ろう

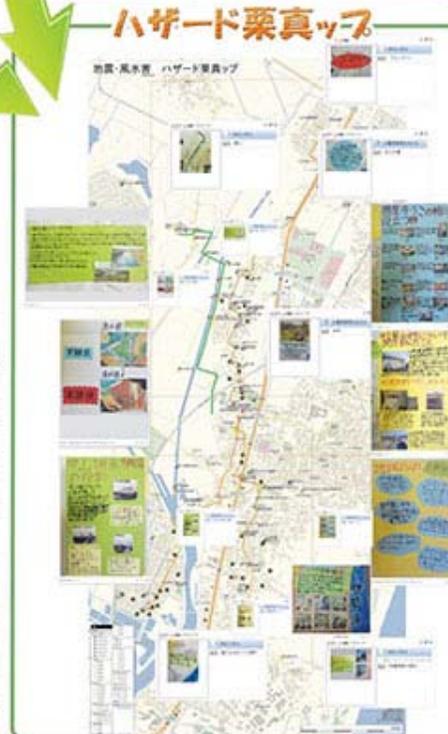
2学期 総合 | 共に生きる

3学期 総合 | 自分たちから発信しよう

ハザード栗真マップ

紙地図

デジタルマップ



2016年3月19日発表ポスター



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e 防災マップ



宮崎県小林市(地震・火山) 小林市 南西四区 南西四区防災マップ

評価・期待ポイント

- 正面から火山災害対策に取り組んでいる。
 - 災害時用支援者の対応で避難所までの距離が遠い等、具体的な問題を指摘している。
 - 危険箇所へののぼり設置や協力車両へのステッカー貼りなど、積極的な取り組みや工夫を行っている。
 - 行政が作成した防災マップに、地域住民の目線を加えている。
 - e防災マップづくりの過程を通じて、住民同士のコミュニケーションが活性化し、地域の災害リスクを理解し、共有する機会となっている。
-
- 火山災害のハザードマップの意味について、わかりやすく説明してほしい。
 - マップを活用した防災町歩きや避難訓練など、住民が実際に防災活動に参加する機会を提供するなどして、地域の防災力の向上に尽力されることを期待したい。

小林市南西四区 南西四区防災マップ

災害種別 地震、火山

地域 宮崎県小林市 南西四区区域

地域特性 当地域は霧島連山の麓にあり、えびの高原付近が火口となった場合には、火砕流等の被害を直接受ける地域に該当します。近年霧島連山の活動が活発化し、現在も予断を許さない状況にあります。また、過去には大雨による土砂崩れの起きた地区が含まれています。

作成経緯 地域課題の解決及び地域活動の活性化を目的に平成25年に「こぼまちづくり協議会」が設立されました。活動の一環として防災への取り組み強化もあるため、組織の一員でもある自治会にて自主防災組織を立ち上げ、災害時の初期活動が可能となるような防災マップを作成しました。

作品・活動・PR 地域住民で活動することで、災害時に大切な住民間のコミュニケーションが再構築できたことが、防災マップ事業に取り組んだ最大の効果です。継続した活動が必要との意見も多く出され、世代を超えて防災(災害)について様々な意見交換ができました。

おいがひしゃー語って
図がびつてな。
(取材:むたししがしっかり説明します。)
南西四区 下沖野人 区長

新燃岳噴火

新燃岳で平成23年1月、52年ぶりとなる爆発的噴火が起きました。噴煙は2,500mまで上がり、噴石は最大16km先まで飛散しました。

防災マップ会議&危険箇所確認会議

自主防災組織のメンバーなどで、防災マップ作成や危険箇所の確認等、地域の防災力向上に努めるよう何度も会議を行いました。

危険木の撤去や水路清掃

重機のご協力をいただきながら、通行人の妨げになる樹木の撤去作業を実施。また、水路の流れが悪く、まとまった雨が降るとあふれて危険な箇所を改修しました。

防災訓練&講演会

救出活動班による救出活動の訓練や給食・給水活動班による炊き出し訓練を行うとともに、国土交通省河川国道事務所から講師を招き、霧島火山の勉強会も行いました。

一時避難所

指定の避難所が遠いため、独自に一時避難所を設定し、確認しました。(西小林地区公民館、南西四区営農研修館)

防災四駆

災害発生時、協力することになっている四輪駆動トラック(軽トラ部隊)に貼るステッカーを作成、貼付しました。

小林市防災マップ推進事業

小林市では、平成26年度から市内の自主防災組織を対象に、防災マップの作成を推進しています。この事業では、防災マップの作成と作成活動を通じて、市民の防災意識の高揚を促進し、災害が発生したときの実質的な避難・減災行動につなげることを期待しています。平成26年度は9地区、平成27年度は11地区で取り組みました。年度末には全体での発表会をコンテスト形式で開催し、各団体のプレゼンテーションを行い、表彰しています。



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

防災ラジオドラマ

最優秀賞

大阪府高槻市(地震)

関西大学近藤研究室・チームSKH

みんな一緒に避難しよう(音声)

評価・期待ポイント

- 地震時の避難行動について、身近で具体的な内容を示しており、津波が発生した際の振る舞い方をわかりやすく伝える内容になっている。
 - 地域の避難所の具体的な名前を入れるなどの工夫をしている。
 - 小学校の活動に大学生が協力をしており、世代を超えた連携ができています。
 - 実際に放送で流したり、メディアに取り上げられたりして児童のモチベーションを高めている。
 - 誰でも理解できる作品に仕上がっている。
-
- 防災ドラマがどのような教育効果を持つかを実証的検証してほしい。
 - 他の災害や、日頃の備えなど津波以外についてもテーマとしてほしい。



みんな一緒に避難しよう ~神戸真陽小学校編~

関西大学近藤研究室・チームSKH

【関大】:折田彩夏・小泉 遼・上田清加 【真陽小】:橘 佳秀・井手 ますみ

災害情報研究室(近藤ゼミ)
kondo.s@kansai-u.ac.jp

問題意識

- 東日本大震災では、620人を超える児童・生徒・学校関係者が命を落とした(文部科学省, 2015)。こうした悲しい出来事を二度と繰り返さないために、防災教育を推進することが急務となっている(たとえば、片田, 2012)
- 神戸市長田区になる真陽小学校は津波発生時の指定避難所になっている。しかし、内閣府の最速想定では浸水するとされており、児童の防災意識を向上させることが求められている。



制作過程

校内放送「見て聞いて」
真陽こども放送局(1000)

毎日、昼休み(昼食時)に
5分~10分程度、放送。

4年生と6年生のペアで話し
込んだら、録音機、録音や
お祈り言葉を伝えている。

委員会活動一
学級によってあれば
委員がその役割を
果たす役割にならない

年間約10本放送

防災ラジオドラマの特徴

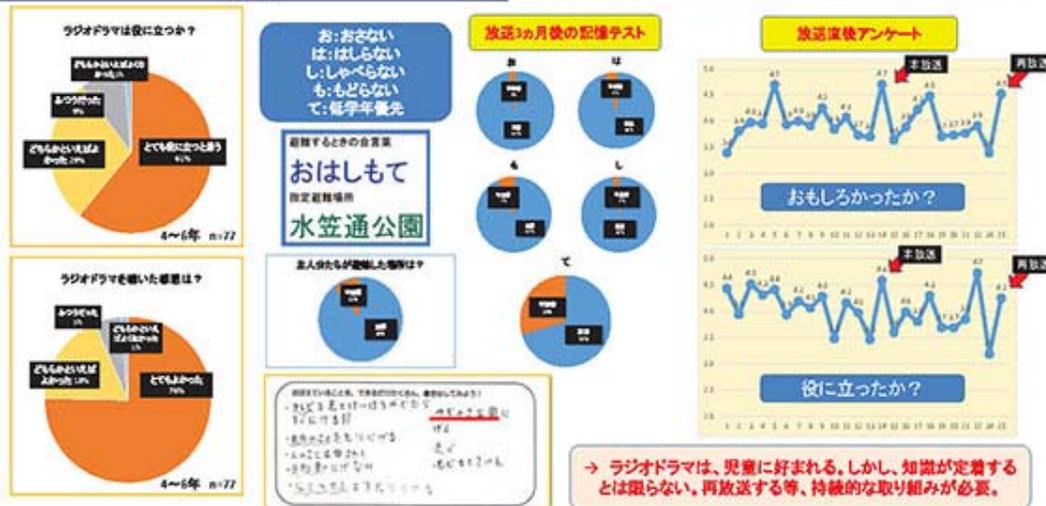
ラジオドラマの制作に
参加した児童たち

放送を聴いた児童たち

- ① セリフを覚えながら楽しく
防災を学ぶことができる
- ② ドラマの設定を通じて
自分び防災の主体で
あることを実感できる
- ③ ラジオドラマは授業より
も積極的に聴きたい!
- ④ シーンごとのやりかたで
自分び行動を再現
することができる

収録の様子

結果



課題と展望

- 今後は、地域の防災活動の取り組み内容を、ドラマのシナリオに盛り込んでいきたい。(第2弾は、2016年3月9日に放送:「地区防災計画モデル事業で確定したルールを反映」)
- ドラマ制作に参加した児童の防災意識の変容等を、追跡調査していきたい。

第6回防災コンテスト(主催:国立研究開発法人・防災科学技術研究所)
2016年3月19日発表ポスター





第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

防災ラジオドラマ



愛知県岡崎市(地震) 愛知産業大学三河高等学校 放送部 帰宅困難者対策 避難所連携(音声)

評価・期待ポイント

- 地震発生から、応急対応時までの流れを生き生きとまとめ、大地震発生直後に行うべきことや事態の推移が整理されている。
 - ワークシートを活用し、科学的に裏づけのあるストーリー展開をしている。
 - ドラマの中での防災知識や対策の「ちりばめ方」が優れており「お勉強感」なく聴くことができる。
 - 災害時に自分たちは何をするのか、何ができるのかを考えて構成されている。
-
- 地震発生直後の混乱の状況を表現してほしい。
 - 役所からの文言が難しいので、高校生の観点から言い換えの提言をしてほしい。
 - もう少し間をおくなど演技の面、収録の面でスキルアップをしてほしい。
 - 災害時における地域のルール説明がほしい。
 - 今後も、さまざまな災害を想定したドラマを作成して、自分たちだけでなく学校、地域の多くの方々に、発災時の具体的な行動について普及啓発されることを期待したい。

愛知産業大学三河高等学校 放送部

『帰宅困難者対策 避難所連携』

愛知県岡崎市藤川町



活動紹介・社会のできごと

1891	濃尾地震 (震源地 岐阜県大野郡根尾村)	マグニチュード8.0
1944	東南海地震 (震源地 熊野灘)	マグニチュード7.9
1945	三河地震 (震源地 三河湾)	マグニチュード6.8
1959	伊勢湾台風	
2000	東海豪雨	
2004	東海ラジオ放送主催 高等学校ラジオ作品コンクール 番組制作部門	優秀賞
2008	平成20年8月末豪雨	
2009	NHK杯 全国高校放送コンテスト 創作ラジオドラマ部門 県大会	(優秀賞) 全国大会 (参加賞)
2011	東日本大震災 (震源地 三陸沖) マグニチュード9.0	
	NHK杯 全国高校放送コンテスト 創作ラジオドラマ部門 県大会	(優秀賞) 全国大会 (参加賞)
2013	第3回防災コンテスト 防災ラジオドラマ (ドラマ部門)	優秀賞
2014	第4回防災コンテスト 防災ラジオドラマ (ドラマ部門)	優秀賞
2015	第5回防災コンテスト 防災ラジオドラマ (ドラマ部門)	優秀賞
2016	第6回防災コンテスト 防災ラジオドラマ (ドラマ部門)	特別優秀賞 (最優秀賞ノミネート)

取材・情報発信

FMおかざき出演 むらさきかんフェスタ

防災・AEDアンケート ビデオメッセージ番組取材活動

岡崎市藤川西部町内会総合防災訓練 取材 (参加) 文化祭防災アンケート

取材活動から、浮き彫りになったこと。
平成26年岡崎市と市内大学・短大の帰宅困難者対策の協定締結から進展が見られない。

公共交通機関(鉄道・バス)乗客避難先は、地域の避難所という事実
大規模災害ともなれば、企業・学校も地域の避難所を頼りにしている？





第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

防災ラジオドラマ



東京都江戸川区(水害) 江戸川女子中学校 放送部 わたしにできること(音声)

評価・期待ポイント

- 豪雨災害の対応についての基本的な知識を提供し、対応を自分で考える内容になっている。
 - 勉強の成果を活かし、しっかりとしたストーリー展開をしている。
 - 災害への事前の心構えから、その後の変化まで、登場人物が知りすぎたり、理解しすぎたりしておらず、リアリティーがある。
-
- 中学生の防災ラジオ活動のリーダーとして、全国的に活躍してほしい。
 - あまり身近ではない災害もテーマにしてみしてほしい。
 - この出来事をきっかけに登場人物がどのように防災に取り組んでいくのかもぜひ制作してほしい。

江戸川女子中学校放送部 「わたしにできること」

地域：東京都江戸川区

あらすじ

中学二年生の彩乃は、妹の花音と仲が悪い。
そんなある日、大雨洪水警報が発令される。
自宅待機でなかった彩乃は学校に行くが、すぐ自宅へ帰されることになる。
しかし帰宅途中、妹が一人である自分の家に洪水警報が出されていることを知る——
災害を経験し、共に乗り越えることで、絆を取り戻す姉妹の物語。



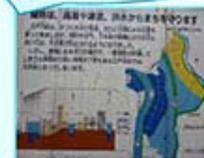
なぜ洪水をテーマにしたのか

以前大雨が降った時、学校近くの駅や学校のグラウンドが水没してしまいました。
それ以来、周りに土のうステーションや海拔〇メートルという表示があることに気づきドラマに取り入れようと思い、
テーマを都市型水害にしました。
また、私達の身の回りでもとても身近な災害だと感じたことも理由の一つです。

工夫した点

- ・本所防災館へ行ったこと
- ・実際の音を使うよう心掛けたこと
- ・ドラマにストーリー性を持たせたこと

江戸川区の堤防の説明



相談中...



苦労した点

- ・雨の中を歩く音を録音すること
- ・事前の下調べ
- ・脚本を作ること

海拔の表示



録音中...



防災館の方へのインタビュー



雨音録音中





第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

防災ラジオドラマ



山口県防府市(土砂)

水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊

平成21年豪雨を忘れないために私たちに
できること(剣川堰堤調査) (脚本)

評価・期待ポイント

- 伝えたいことが明確である。
- 専門家を巻き込んでいる。
- 子供達が自らの言葉で語るにより、同世代への災害の恐ろしさ、防災の大切さを訴えかけやすい作品になっている。
- 世代を超えた町歩きによって実際に避難する際の気づきが得られている。

- なぜ水害・土砂災害になったのかをもっとわかりやすく説明してほしい。
- 「続き」や「絵本」の完成を期待したい。
- 物語の中に出てくる豆知識を副読本にしてほしい。



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e防災マップ



水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊

タイトル	平成21年豪雨を忘れないために私たちにできること(剣川堰堤調査)
対象災害	土砂災害
地域	山口県 防府市
作品概要	平成21年の豪雨災害の時幼稚園年長だった子どもたちが、災害を語り継ぐために剣川砂防堰堤を専門家と調査した。山のこと、堰堤の働きなど学んだ。どんな言葉よりも目の前の土石流の跡は説得力があった。伝える手段を絵本と決めて、自分たちが忘れない、語り継ぐことを決意する。継続している物語である。(物語の中で次世代の育成も盛り込んだ)砂防堰堤・堆積工などの説明を加えた。専門家の声は調査当日の言葉である。
作品・活動PR	広島の高島の映像を見て防府豪雨を思い出したお母さん。当時幼稚園年長の子どもにはその記憶はない。被災箇所を訪れ感じることで、災害を語り継ぐ。自分の言葉探しの活動。言葉をつむぐ手伝いは、地質の先生と山口県職員。山を作る石のこと、建設された砂防堰堤の話。簡単に割れた花こう岩。現地を感じてほしくて石は拾って帰った。この石を使って、絵本を作ることになった。触れる絵本。絵本にするのは難しいけれど、多くの人に伝えるために作りたい。 子ども達が自分で感じて、自分の言葉で語る。現場の石を持ち帰り、語るためのアイテムにする。被災から2年後に調査した先輩に話を聞いた。行政(防府土木)地域の地質の先生を巻き込んだ。



第6回防災コンテスト(主催:国立研究開発法人防災科学技術研究所
2016年3月19日発表ポスター)



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

防災ラジオドラマ



兵庫県神戸市(地震)

語り部KOBÉ1995

私に語る資格はあるのでしょうか(脚本)

評価・期待ポイント

- 語り継ぐことの意味を明確にして、次世代に語り部活動を引き継ぐことの難しさと、重要性をうたえかけている。
 - 語り部の果たしている役割についてドラマ仕立てで上手に紹介されている。
-
- 音声化や続編の作成を期待したい。
 - この活動が他の被災地の語り部にどのような影響を与えるのか期待したい。
 - メディアで発信してほしい。
 - 東日本大震災等、他の地域の災害の語り部活動に対して、サポートやアドバイスを期待したい。



第6回 地域の絆をつくる
防災コンテスト

e防災マップ

語り部 KOBÉ 1995

タイトル	「私に語る資格はあるのでしょうか」
対象災害	地震災害
地域	兵庫県 神戸市
作品概要	語り部 KOBÉ1995 の代表・田村博太郎さんと、震災後に生まれた神戸在住の大学生が授業を通して出会い、語り部としての田村さんの悩みを聞きながら、「震災を知らない若い世代がどのように震災の記憶を語り継ぐべきか」について考え直す物語。 10年以上、語り部活動を続けてきた田村さんの苦闘の話しから、震災の語り継ぎとは、必ずしも本人が直接体験したことのみについて話すことではなく、人から聞いたエピソードを他の人に語り継ぐことでもあり、震災を知らない自分も災害体験の伝承の担い手になることに気づく。 本作品は、語り部の「被災の経験談の内容」にのみ注目するのではなく、被災の経験談を10年以上にわたって語り続けることで「語り部自身が変わってきたという事実」に注目して制作された。阪神・淡路大震災の語り部の高齢化や、震災を知らない世代の登場など阪神・淡路大震災後21年目を迎える今だからこそ考えるべき「新しい語り継ぎの形」について、ラジオドラマで表現した。
作品・活動PR	本作品は、語り部 KOBÉ1995 の新しい防災教材を作成するという目的のもと、被災地で語り部活動を行う語り部、被災者を後世に語り継ぐ役割を担う次世代の若者を対象に制作された。 語り部が普段話す内容は、震災直後の被災の経験談についてのものが多いので、あえてラジオドラマ制作では「語り部を続けてきたこと」「語り継ぎとはそもそもどういうことなのか」について改めて議論した。ラジオドラマの制作物を元に、千歳地区自主防災委員会などの地元団体との協働を行い、防災活動の後継者問題の解決策として今回の作品に対して強い共感を得た。 語り部の依頼を受けてきた数多くの学校や団体とのやりとりも参考しつつ制作された。また、本作品は語り部 KOBÉ1995 の新しい防災教材として活用している。さらに、対外的な活用だけではなく、本作品の「語り部としての葛藤」はメンバー内での議論の呼び水になり、震災21年目を迎える新たな活動の展開を考える好材料として有効に活用している。



第6回防災コンテスト(主催:国立研究開発法人防災科学技術研究所
2016年3月19日発表ポスター)

第6回防災コンテスト受賞作品集

- 発行日 2016年3月
 - 制作・著作 国立研究開発法人 防災科学技術研究所
社会防災システム研究領域
災害リスク研究ユニット
URL <http://bosai-contest.jp>
〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1
Tel :029-863-7553
Fax:029-863-7541
mail:risk_office@bosai.go.jp
-